

ソルボンヌ共同宣言

ヨーロッパ高等教育システムの構造の調和についての共同宣言

フランス、ドイツ、イタリア、英国の担当4大臣による。
パリ、ソルボンヌ、1998年5月25日

つい最近、ヨーロッパプロセスは非常に重要な未来への第一歩を記した。それは関連していることであるが、ヨーロッパはユーロ、銀行、経済の足取りだけではなく、知識についても同様でなければならないということを忘れてはならない。ヨーロッパ大陸での知的、文化的、社会的、技術的分野を強化し、築きあげなければならない。これらはその大部分が大学によって形成されてきているが、その開発にとってきわめて重要な役割を果たし続ける。

大学はヨーロッパに生まれたが、それは約750年も以前のことであり、われわれ四カ国はもっとも古いものであることを誇りに思っているが、近年、重要な創立記念日を祝っており、今日はパリ大学が祝っている。その頃、学生や教員は大陸至るところに知識を自由に流通し、急速に普及した。しかし今日、国境の外において勉学期間を享受することもなく卒業している学生はあまりにも多い。

われわれは、教育および労働の条件が大きく変動する時期へと向かっており、教育と研修は生涯にわたって誰にとっても義務になりつつあり、専門職キャリアのコースは多様化する方向へと突き進んでいる。学生が自分のもっとも優れている部分を探し、そして見出して行く最大限の機会が与えられるような高等教育システムは、学生にそして広くは社会に依存しているのである。

高度な学習にとって開かれたヨーロッパ域内は、建設的な展望をもち、われわれの多様性を尊重するようなコースの豊かさをもっている。しかし他方、障壁を取り除き、教授と学習のための枠組みを発展させる絶え間ない努力が求められているが、それは移動性とますます親密になる協力を促進することであろう。

われわれのシステムが国際的な認知と魅力的な可能性をもっていることは、その外的ならびに内的な分かり易さと直接的に関係している。システムは、二段階すなわち学部レベルと大学院レベルにおいて、国際比較と対等性で認められており、しだいに明らかになりつつある。

このシステムでの独創性と柔軟性の多くは、(ヨーロッパ単位互換制システムのような)

単位制と学期制を活用することで達成されるであろう。これは異なったヨーロッパの大学で入門教育ならびに継続教育を選び、生涯を通じて適切なときに学位を取得できると望んでいる人にとって習得した単位の有効性を認めることであろう。実際、学生は職業生活のいつの時期にもさまざまなバックグラウンドから学術的な世界に入ることができるべきである。

学部学生は複数の専門を勉強する機会、言語の流暢さの開発、新しい情報技術を活用する能力などを含んでさまざまなプログラムを受講できることである。

第一段階（学部レベル）学位を適切なレベルの資格として国際的に認知することは、その努力の成功にとって重要であり、そのことですべての人にとって高等教育計画として明白になるようわれわれは望んでいる。

大学院レベルでは、短期の修士学位から長期の博士学位のあいだで選択できることであり、相互に単位互換が可能である。大学院の両方の学位において、研究と自律的学習を適切に強調すべきであろう。

学部と大学院の両レベルで、学生は少なくとも1学期間は自分の国の外で過ごすように奨励されるだろう。同時に教育と研究のスタッフも自分の国以外のヨーロッパの国でもっと働くべきである。学生や教員の移動性をヨーロッパ連合の支援でもっと増加することで完全に実施されるべきである。

ヨーロッパ内だけのことではなく、多くの国でこのような発展を促進することの必要性について十分に認識されている。ヨーロッパの総長、それぞれの国の大学学長、専門家グループ、大学教員の会議では、これらの線に沿って広く考えることに努めた。

ヨーロッパ内での学術分野の高等教育の資格を認めるための会議が、昨年リスボンで合意された。その会議で基本的な要求事項が定められ、それぞれの国でさらにもっと建設的な計画を推進できると認識された。これらの結論と並んで、誰でもそれに依拠し、さらに先に進むこともできる。ヨーロッパ連合のそれぞれの方向性を通して専門職を目的とした高等教育学位を相互に認め合うことについてすでに多くの共通基盤が存在する。

しかしながらわれわれの政府は、習得された知識が有効になるように、そしてそれぞれの学位がさらに良く認知されるように助成して、これらの目的にとって重要な役割を果たし続けなければならない。われわれはこれがさらなる大学間の合意を促進すると考えている。われわれの学位と課程の全体的な枠組みの革新的な調整は、すでに存在する経験、共同の免許状、試行的先進例、すべての関係者との対話を強化することによって達成することができる。

これによってわれわれは共通の参照の枠組みを推進するために、外部認証を改善し、学生の雇用可能性と同時に移動を容易にすることを検討した。今日ここソルボンヌでのパリ大学の創立記念日に、高等教育のヨーロッパ域内を創造するために努力し正式な機会をもつことができた。その域内ではそれぞれの国の固有性と共通性の利害は、ヨーロッパ、学生、そしてさらにもっと広く市民の利益のために相互に影響し強め合うことである。他の連合参加国とその他のヨーロッパ諸国に、この目的のためにわれわれと一緒になることを呼びかけ、市民のために教育をたえず改善し更新することによって世界におけるヨーロッパの立場を強固なものにするために、すべてのヨーロッパの大学に呼びかける。

クロード・アレグレ	ルイギ ベルリンゲ	テッサ ブラックストーン	ユルゲン リュトガー
全国教育研究技術 大臣 (フランス)	公教育、大学、 研究大臣 (イタリア)	高等教育大臣 (英国)	教育、科学、研究 技術大臣 (ドイツ)

訳注：イタリアのボローニャ大学は 1088 年、オックスフォード大学は 1117 年、パリ大学は 1211 年、ドイツのハイデルベルグ大学は 1386 年の創設である。

(西之園 晴夫 訳)